

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区九段北1-8-10

為替週間展望＝ドル円は130円を指向して一段と上昇する展開か

〔4月25日からの1週間の展望〕

週間高低（カッコ内は日）		4月18日～4月22日			
始値	高値	安値	終値	前週比	
ドル・円	126.48	129.40(20)	126.25(18)	127.87	+1.41
ユーロ・ドル	1.0811	1.0936(21)	1.0761(19)	1.0846	+0.0036
=====					
国内株・金利／米国株・金利		終値		前週末比	
日経平均株価	27,105.26	+12.07	日本10年債利回り	0.247	+0.006
ダウ平均株価	34,792.76	+341.53	米10年債利回り	2.910	+0.082
=====					

<来週の主要経済統計等>

- 25日 英4月ライトムーブ住宅価格
日本2月景気動向指数改定値
独4月ifo景況感指数
- 26日 日本3月有効求人倍率、日本3月雇用統計
米3月耐久財受注
米2月S&Pケースシーラー住宅価格指数、米2月住宅価格指数
米4月消費者信頼感指数、米3月新築住宅販売件数
- 27日 豪第1四半期消費者物価指数
米3月中古住宅販売制約指数
- 28日 NZ3月貿易収支
日本3月鉱工業生産指数速報値、日本3月小売業販売額
日銀金融政策決定会合（27～28日）・金融政策発表
黒田日銀総裁記者会見
独4月消費者物価指数速報値
米第1四半期国内総生産（GDP）速報値、米新規失業保険申請件数
- 29日 豪第1四半期生産者物価指数
中国3月財新製造業購買担当景気指数
スイス3月小売売上高、スイス4月KOF先行指数
独第1四半期国内総生産（GDP）速報値
ユーロ圏4月消費者物価指数速報値、ユーロ圏第1四半期域内総生産（GDP）速報値
米3月個人所得・個人支出、米第1四半期雇用コスト指数
米4月シカゴ購買部協会景気指数
米4月ミシガン大学消費者信頼感指数

【前回のレビュー】主要国が利上げや金融引き締めに動く中、日銀は緩和策の継続を表明しており、円は売られやすい通貨として意識されている。ドル円は目立った売り圧力はなく、底堅い動きが継続して、最近の高値圏での振幅を見せながらも一段と上値を追う可能性が高いとした。

【ドル円は一段と上値を追う展開か】

日米での金融政策のスタンスの違いからドル円は上昇基調が続いている。米連邦準備制度理事会（FRB）は5月の米連邦公開市場委員会（FOMC）で0.50%の利上げに動く可能性が高い上、バランスシート縮小に向けて動き始めるとみられる。インフレ率が高止まりしている現在の状況から、FRB当局者の発言でも、5月のFOMCでの0.50%利上げやその後も積極的な引き締め策に言及するケースが多い。

米10年物国債利回りは上昇傾向にあり、3%乗せが視野に入ってきた。一方で、日銀の黒田総裁は依然として金融緩和姿勢を強調している。日銀は20日に指定した利回りで国債を無制限買い入れる「指値オペ」と実施すると発表した。26日まで5営業日連続で実施するとしている。

こうした中、20日にはドル円は129.40近辺までドル高円安が進行した。2020年4月以来、20年ぶりの円安水準となる。この後は過熱感の高まりもあり、127円台半ばまで調整の動きを見せた。もっともそこから127円を割り込むような動きとはならず、高値圏でのみみ合いを見せている。

CME FEDウォッチによると、5月3～4日の米連邦公開市場委員会（FOMC）での0.50%の利上げ確率は99%前後に達しており、5月のFOMCでの0.50%の利上げはほぼ確実な状況。6月14～15日のFOMCでの0.50%の利上げ確率は25%前後の水準に低下する一方、0.75%の利上げ確率が75%前後に上昇している。

これは18日にセントルイス連銀のブラード総裁が、複数回の0.5%の利上げで政策金利を年内に3.5%前後まで引き上げる必要があると述べたことや、0.75%以上の利上げの可能性も排除しないとの考えを示したことなどが背景にあるとみられる。また、21日にパウエルFRB議長が5月のFOMCで0.50%の利上げが選択肢になると語ったことも影響しているようだ。

28日には日銀金融政策決定会合の結果発表と黒田総裁の記者会見がある。緩和的な金融政策の継続を表明し続けている日銀や黒田総裁のスタンスが急に変更になる可能性は低いとみられる。ただ、円安進行が止まらずに輸入物価の高騰などを通じて景気への悪影響も警戒されることで、円安をけん制するような発言などが出てくるかどうか注目される。

FRBによる金融引き締めスタンス、日銀による緩和策の継続を背景にドル円は底堅い動きを続けることとなりそう。テクニカル的な過熱感による調整を挟んで、ドル円は130円を指向して一段と上昇を続ける可能性が高いとみられる。ドル円の目先の予想レンジは、126.50～130.50円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、25日に日本2月景気動向指数改定値、26日に日本3月有効求人倍率、日本3月雇用統計、米3月耐久財受注、米2月S&Pケースシラー住宅価格指数、米2月住宅価格指数、米4月消費者信頼感指数、米3月新築住宅販売件数、27日に米3月中古住宅販売制約指数、28日に日本3月鉱工業生産指数速報値、日本3月小売業販売額、米第1四半期国内総生産（GDP）速報値、米新規失業保険申請件数、29日に米3月個人所得・個人支出、米第1四半期雇用コスト指数、米4月シカゴ購買部協会景気指数、米4月ミシガン大学消費者信頼感指数などがある。

【ユーロドルは徐々に上値を追う動きか】

ユーロドルは1.07台半ばまで下落したものの、その後は下げ渋りから上昇に転じている。ユーロ圏でもインフレ率は高止まりしている。欧州中央銀行（ECB）はFRBに比べて緩やかながらも金融引き締め動く必要が出てくるとの見方も根強い。ウクライナ戦争やエネルギー価格の高騰によるユーロ圏の景気への悪影響が警戒されるものの、インフレ率の抑制のためにECBもスタンスを変更してくる可能性が高まりつつあるとみられる。

こうした中、21日にECBのデギンドス副総裁が、データに依存するとしながらも7月利上げの可能性に言及した。この発言を受けて、ユーロドルは1.0850近辺から1.0930台まで大きく上昇を見せた。ただ、買い一巡後は上値を抑えられることとなった。

短期金融市場ではECBによる今年3回の0.25%の利上げを織り込んでおり、ユーロドルは安値を切り上げて、徐々に上値を追う動きに転じるとみられる。ユーロド

ルの目先の予想レンジは、1. 0750～1. 1050ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、25日に英4月ライトムーブ住宅価格、独4月IFO景況感指数、27日に豪第1四半期消費者物価指数、28日にNZ3月貿易収支、独4月消費者物価指数速報値、29日に豪第1四半期生産者物価指数、中国3月財新製造業購買担当景気指数、スイス3月小売売上高、スイス4月KOF先行指数、独第1四半期国内総生産（GDP）速報値、ユーロ圏4月消費者物価指数速報値、ユーロ圏第1四半期域内総生産（GDP）速報値などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。